

わたしたちは、

ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくりの
共同研究に産官社学連携で取り組んでいます。

2017年に開始した大阪大学『ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくり
の共同研究』、2018年から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ
(SSI) 基幹プロジェクト「地域資源とITによる減災・見守りシステムの
構築」(代表：稲場圭信教授)において「未来共生災害救援マップ」
(通称「災救マップ」)、独立電源通信システム(愛称
「たすかんねん」)の開発を進めてきました。

わたしたちは、上記の共同研究で研究
してきた社会課題解決の実装を
行っています。

現代社会は、新自由主義のなかで
分断され個人主義的傾向が強まりつつ
ある社会です。地縁・血縁・社縁という絆や
つながりが弱まり、孤独を生きる社会となっています。
その傾向は、ITの進展で情報の非対称が減少したことで
見えやすく、益々強まっています。

一方、阪神大震災、東日本大震災の経験によって、思いやりの大切さの
認識が強まったことは事実です。同時に日本では予測できない自然災害多く、
規模が大きくなっています。あらかじめ被災後何が起き、何が不安で、何が必要かを
予測し備えることはできるため、本共同研究は立ち上がりました。



連携組織の一覧 (順不同・敬称略)

大阪大学、一般社団法人全国自治会活動支援ネット、NTN株式会社、ソフトバンク株式会社、株式会社日新システムズ、
日本電業工作株式会社、一般社団法人地域情報共創センター、認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク

未来共生災害救援マップ（通称「災救マップ」）

災救マップは、避難所情報を管理・参照するためのウェブ情報サービスです。防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPOなどによる平常時からのつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には救援活動の情報プラットフォームになります。災救マップのシステムおよびデータベースは、大阪大学の知的財産であり、（一社）地域情報共創センターが大阪大学の研究開発成果である災救マップの社会実装を担っています。

災救マップの構成

災救マップは、一般ユーザ向けの「公開系」と市区町村・組織用の「管理系」（施設情報管理、インフラ稼働・混雑状況発信、備蓄品管理など）という2つのシステムからなっています。

一般ユーザによる利用は、登録なしで行えます。管理系を利用される市区町村・組織の皆様は、ご利用のために管理権限設定が必要です。

自治体導入事例

- 鹿屋市（鹿児島県）

鹿屋市向けの災救マップを提供。市民向け情報提供アプリ「かのやライフ」と連携



「災救マップ」を利用するには

災救マップは、下記URLにアクセスすることで利用できます。

▼公開系

<https://map.respect-relief.net/>



▼管理系

https://www.respect-relief.net/user_auth/sign_in



管理系のご利用には
ユーザー登録が必要です

独立電源通信システム（愛称「たすかんねん」）

独立電源通信システム「たすかんねん」は、風力や太陽光発電といった再生可能エネルギーによって発電・蓄電された「独立電源」を活用し、無線通信、照明、カメラ、スマホへの給電等機能を活用できるようにしたシステムの総称です。このネットワークが街中のあらゆる所に構築されることにより、災害などによる停電時にも独自の通信網で外部との連絡ができるようになる「公共ネットワーク化」を目指しています。国府省庁はもちろんのこと、全国の地方公共団体・基礎自治体を始め、多くの企業やNPO、地縁組織とも連携し、「たすかんねん」による独立電源通信のネットワークづくりを推進しています。



たすかんねんの特徴

1. 独立電源であり、商用電源不要です。
2. 業界一の静粛性の風力と太陽光とのハイブリッド発電です。
3. 複数の「たすかんねん」を配置することで、独立電源のネットワークを構築可能です。
4. 停電時でも、たすかんねん周辺で、通信が可能です。またWi-Fi機器を利用することで、スマートフォン等をインターネットに接続することができます。
5. 長距離無線通信システムも併用することにより、遠方の拠点等と非常時の無線通信網の構築が可能となります。

設置場所例

- 避難場所（学校施設など）
- 公共施設、道の駅
- 寺社教会等の宗教施設
- 観光スポット、遠隔集落（孤立集落対策）など
- 川辺の街路灯（河川水量センサー等と連携）
- 街中の電柱（各種安全・安心・見守り支援）
- 公園施設（東屋、防災施設、等）
- 商店街（公共Wi-Fi併用、等）

「災救マップ」
「たすかんねん」

一般社団法人
に関するお問い合わせは、**地域情報共創センター**へ



一般社団法人
地域情報共創センター

E-mail : otoiwase@riccc.net
大阪大学&地域情報共創センターの関係者に届きます。
お問い合わせはこちら▼
otoiwase@riccc.or.jp

